



■ 親鸞聖人御廟

旧鶴来町舟岡山の北側に在る、聖人の生齒塚と称される石組み。1977年(昭和52)白山市指定文化財となる。1972年(昭和47)塚前に礼拝所として六角堂が建立された。



■ 佛供箱錢缺と緡銭 白山市指定文化財

(銘 佛供箱 金劔宮行所方 天文二十四年十二月)
1937年(昭和12)4月28日、別院境内北側で電柱建
工事に際し地下60cmから20貫の古銭(総数17,458枚)
が発見された。



■ 鐘楼堂

1956年(昭和31)10月22日再建。雪国の風雪に耐えら
れるように12本柱の頑強な作りである。



- 北陸鉄道石川線 鶴来駅より 徒歩10分
- お車をご利用の場合
北陸自動車道 白山IC下車、東南方向
白山市鶴来方面へ30分

真宗大谷派 鶴来別院

〒920-2124 石川県白山市鶴来清沢町ヨ12番地
TEL (076) 272-0144番
FAX (076) 272-0944番

真宗大谷派

鶴来別院



別院の歩み



■ 本堂扁額

「遠慶宿縁」彰如(句仏)上人染筆

鶴来の地は、天平時代の古より白山信仰を土徳としながら、白山を源流として大地を潤す手取川扇状地の要に位置しています。山の民と里の民の交流の要衝として産業経済文化など大いに繁栄してきました。

戦国時代の加賀国四郡では、本願寺第八代蓮如上人の子息が入寺した寺院を「御山」と呼び、各郡真宗寺院の中核となっていました。旧石川郡鶴来には上人の七男蓮悟によって「清沢坊」が創建され、後に十男実悟入寺によって「願得寺」を号するなど、

石川郡の御山として郡内一円門徒の崇敬を集めていました。しかし、1531年(享禄4)「享禄の錯乱」と言われる一向一揆の内紛により焼き討ち廃絶となります。清沢願得寺廃絶の後、天文年間(1532~1555)に「大御坊惣道場」が建立され、村落門徒の総意で維持運営される聞法道場が生まれます。

惣道場は1880年(明治13)4月、金沢別院鶴来支院の公称を契機に新たな本堂建立の願いが起こり、翌年3月には仮御堂が建てられた。1891年(明治24)10月に現在の本堂建築が起工され1899年(明治32)に完成した。1903年(明治36)11月、金沢別院より独立して鶴来別院となった。

当別院は、加賀一向一揆以来500余年にわたり、真宗門徒の篤い御懇念と伝統を継承する聞法の道場として今に至っています。



■ 本堂

白山市指定文化財
2010年(平成22)本堂屋根全面葺き替え



■ 御殿門

江戸時代に建造され加賀藩筆頭家老本多家屋敷跡に在ったと伝えられる。1957年(昭和32)移築の屋根板には施主小堀外喜男・宮大工村西清二の銘がある。



■ 別院会館

1987年(昭和62)竣工。古御堂址に、和洋室広間・研修室・厨房・浴室などを備えた多目的施設。
各種法要・葬儀(200人程度~小規模)会議等に利用。